

東カリブ諸国機構（OECS）6カ国内政、経済、外交月間報告  
（注：アンティグア・バーブーダ（アンティグア）、ドミニカ（国）、グレナダ、セントルシア、セントクリストファー・ネイビス（セントキッツ）、セントビンセント及びグレナディーン諸島（セントビンセント））

（2021年10月）

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

## 1. 概況

- 多くの国でコロナ・ワクチン接種が進まない中で、アンティグア及びセントビンセントを中心にワクチン接種を義務付ける対象を拡大する動きが見られる。各国の感染者は減少傾向にあり、規制措置の緩和、北米及び欧州との直行便の再開が発表されている。
- OECS諸国の関心事項である気候変動に関し、多くの首脳、閣僚がグラスゴーでのCOP26会合への出席が発表された。
- セルビアでの非同盟運動60周年記念会合、イタリアでのイタリア中南米カリブ会合に一部諸国の外務大臣等が参加した他、ドバイ万博出席など、各国要人の外国訪問が活発化されつつある。
- 平山大使は、セントルシアを訪問し、7月に就任したピエール首相、バプティスト外務大臣、プロスペール農業大臣と会談した他、日本の無償資金協力案件視察、OECS事務局長との会談等を行った。

## 2. 内政

### （1）新型コロナウイルス

- 1日付セントビンセント紙は、ゴンザルベス首相は、教師及び学校職員をワクチン接種義務付け職種に追加すると発表したと報道。
- 4日付セントビンセント紙は、プリンス保健大臣は新規感染者及び入院患者が急増し、医療体制は困難な状況にあると述べたと報道。
- 5日付アンティグア紙は、ブラウン首相は、ワクチン接種動向に関わらず、年末までに非常事態宣言や夜間外出禁止を含む殆どの規制を解除する、政府はワクチン接種に十分な機会を提供したが、接種しなかった場合の結末はその人の責任であると述べたと報道。6日付同国紙は、15日から夜間外出禁止開始は午後11時からとなると報道。
- 5日付グレナダ紙は、ミッチェル首相は、週末の終日外出禁止の解除、夜間外出規制時間の一部緩和、レストランでの店内飲食をワクチン完全接種者限定で許可等の緩和措置を発表したと報道。
- 8日付アンティグア紙は、政府は15日から官民を問わず必要不可欠部門従事者へのワクチン接種を義務付けると発表したと報道。16日付同紙は、政府は、全ての公務員、国有企業職員等にワクチン接種を義務付けることを閣議決定したと報道。

- 11日付セントルシア紙は、主任医務官は、カリブ公衆衛生庁（CARPHA）に送付した検体から9件のデルタ株感染が確認されたと発表したと報道。
  - 12日付セントビンセント紙は、カナダから寄贈を受けた2万回分のアストラゼネカの内、1万回分をカリブ3カ国に寄贈したと報道。
  - 13日付セントキッツ紙は、米国は130万米ドル相当の2つの野戦病院及び関連機器を寄贈したと報道。
  - 14日付セントビンセント紙は、同国はジャマイカ、セントルシア及びハイチと並んで、カリブ地域でワクチン接種率が20%に達していない4カ国の1つと報道。
  - 16日付セントルシア紙は、ピエール首相は、緊急事態宣言を解除し、必要な規制措置は継続するが、感染数が減少すれば規制措置を緩和すると述べたと報道。18日付同紙は、野党は緊急事態宣言解除を不服として、再導入を求めたと報道。
  - 19日付ドミニカ紙は、スケリット首相は、OPEC国際協力基金と1千万ドルの支援合意に達し、この資金はコロナ禍対策の備品、医薬品等に使用されると述べたと報道。
  - 20日、セントキッツ情報局は、インド及び南アからの渡航制限を解除したと発表。
  - 22日付セントルシア紙は、台湾は、ロサンゼルス台湾人協会が集めた個人防護服等を同国警察に寄贈したと報道。
  - 26日付アンティグア紙は、セントルシアから5千回分のファイザーが到着し、接種を再開すると報道。
  - 26日付セントビンセント紙は、ゴンザルベス首相は、政府前線職務従事者は11月19日までにワクチン接種を行わなければ失職すると発表したと報道。
  - 28日付セントキッツ紙は、同国のワクチン接種率は51.3%となり、WHOがカリブ地域に設定した40%を超えていると報道。
  - 29日付アンティグア紙は、政府は民間部門にもワクチン接種を義務付ける措置を決定し、11月15日までに少なくとも1回のワクチン接種を求めると報道。
  - 29日付ドミニカ紙は、政府は店舗営業時間の延長、集会制限人数の緩和等の規制措置緩和を発表したと報道。
- (2) その他内政
- 8日付アンティグア紙は、YIDA経済特区に西部帝国医科大学が開校され、ブラウン首相他が開校式に出席したと報道。
  - 18日付セントルシア紙は、シャスネ野党党首（前首相）は、野党党首を継続すべきか悩んでいると報道。28日付同紙は、シャスネ党首は、統一労働党に党首辞任を申し出たが、同党は却下したと報道。
  - 25日、セントルシア政府は23日に良い統治問題協議のためリトリート閣議を終日開催したと発表。

- 28日付ドミニカ紙は、スケリット首相は、レジスト前外務省付大臣の逝去に伴う補欠選挙を11月25日に実施すると発表したと報道。
- 28日付セントキッツ紙は、11月28日開催のセントキッツ労働党党首選に、ダグラス現党首は出馬せず、3人の候補者の争いとなると報道。
- 29日付セントビンセント紙は、保健省はデング熱発生が例年より多いと注意喚起したと報道。

### 3. 経済

- 1日付アンティグア紙は、3日からエアカナダがトロント・アンティグア便を再開するを発表したと報道。4日付セントルシア紙は、3日エアカナダは、トロント・セントルシア便を1年以上ぶりに再開したと報道。4日付ドミニカ紙は、アメリカン航空は、マイアミ・ドミニカ便を12月8日から開始すると報道。
- 2日付アンティグア紙は、カリブ開発銀行（CDB）は、コロナ禍からの復興支援のための2,500万米ドルの借款を承認したと報道。
- 6日付セントルシア紙は、台湾の支援による1千万東カリブドルの低所得者向け住宅支援が開始され、ピエール首相は選挙公約の国民優先を実現するものと強調したと報道。
- 6日付セントビンセント紙は、13日からバージンアトランティックのロンドン（ヒースロー）週2便、20日からカリビアン航空のニューヨーク便の再開、アメリカン航空は20日からマイアミ便を週2便に増便すると報道。
- 8日付ドミニカ紙は、スケリット首相は、EUが非協力的な税制を持つ国のリストからドミニカを除外したことを歓迎するが、そもそも掲載されるべきではなかったと述べたと報道。
- 11日付ドミニカ紙は、ロックハート＝ヒポライト運輸省政務次官は、交通機関が同国での温室効果ガスの最大の排出源であり、30年までに17%削減を目指すと述べたと報道。
- 12日付セントビンセント紙は、ジェームス観光航空大臣は、13日からのバージンアトランティック直行便運行開始前に、英国政府との航空協定及び両国航空局間の協力覚書に署名したと報道。
- 13日、セントルシア政府は、米州機構（OAS）はその開発協力基金から同国の中小零細企業育成支援のために10万米ドルの無償資金協力を承認したと発表。
- 19日付ドミニカ紙は、ダルー外務大臣はドバイ万博のドミニカ・デー行事に出席し、ドミニカは経済多様化で新たに近代的な社会を目指すと強調したと報道。
- 22日付セントビンセント紙は、政府はアフリカ豚熱の発生がドミニカ（共）やハイチで見られており、水際での阻止対策の戦略計画を実施に移したと報道。
- 23日付グレナダ紙は、政府は温室効果排出ガスを2010年以前のレベルから30年までに40%削減する目標を再確認したと報道。

- 25日、セントルシア政府は、日本が支援したショゼール港の堆砂問題解決のため、9月からJICA調査団が来訪し、堆砂軽減のための今後の対策工事、工期等の調査を開始したと発表。
- 25日、OECSは、セントビンセントの火山噴火被害への支援のため、同機構からの資金協力、募集した支援物資等総額490万東カリブドル相当の支援を同国に手交したと発表。
- 28日付アンティグア紙は、ブラウン首相はグラスゴーでのCOP26会合に出席すると報道。30日付セントルシア紙は、ピエール首相が同会合に出席すると発表したと報道。
- 29日、OECSは28日に第9回特別首脳会合を開催し、COP26会合に向けて気候変動問題を中心に協議したと発表。

#### 4. 外交

- 11～12日、セントキッツ情報局は、ブラントリー外務大臣はセルビアでの非同盟運動60周年記念会合に出席した他、セラコビッチ・セルビア外務大臣やテンジュア・サントメプリンシペ外務大臣との会談、ガボン及びパレスチナとの相互査証免除協定に署名、ブルキナファソとの外交関係樹立及び相互査証免除協定署名等を行ったと発表。
- 12日付アンティグア紙は、グリーン外務大臣はセルビアでの非同盟運動60周年記念会合に出席し、コロナ・ワクチン不足問題等を取り挙げたと報道。
- 12日付ドミニカ紙は、スケリット首相は、ドバイ万博出席のためアラブ首長国連邦を訪問した後、パキスタンを訪問し、ラウォール医学研究所との間でドミニカにラウォール国際大学を開校する合意に署名したとパキスタン紙が報じたと報道。
- 20～22日、平山大使はセントルシアを訪問し、7月に就任したピエール首相、バプティスト外務大臣、プロスペール農業大臣と会談し、両国間関係や両国が共有する国際的課題につき協議した。また、平山大使は、ジュールズOECS事務局長を訪問し、同機構との協力関係を協議した他、日本の無償資金協力案件であるカルデサック橋梁架け替え現場を視察した。
- 26日付アンティグア紙は、グリーン外務大臣は、ローマで開催された第10回イタリア中南米カリブ会合に出席したと報道。27日セントキッツ紙は、ブラントリー外務大が上記会合に出席し、ラミレス・コロンビア外務大臣と会談したと報道。

※これは、報道等公開情報をまとめたものであり、報道の真偽まで確かめたものではありません。